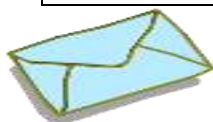


全国保健師長会
群馬県支部 **ミニつうしん**
平成30年度 第2号

発行日

平成31年1月15日

支部長 神山 智子



支部長あいさつ

支部長 神山 智子

明けましておめでとうございます。皆様お健やかに新年をお迎えになられたことと思います。また、会員の皆様におかれましては、日頃から保健師長会の活動に多大なるご協力をいただき、感謝いたします。

昨年は、大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震など各地で甚大な被害がありました。応援にご尽力いただいた皆様に感謝いたします。また、日本全国どの地域で被害が起きてもおかしくない状況を鑑み、受援力について思いを致す方々も多くいらしたと思います。日頃の活動が非常時にも表れるともいわれます。私たちはこれまで以上に地域住民の生活をしっかり見つめ、非常時への備えにも力を入れていく必要があります。

11月には、全国保健師長会代議員総会に出席させていただき、往路にも、総会当日にも感動する出来事がありました。往路では、名古屋に向けた新幹線車中からセロテープのニチバンの工場が見え、その壁面に「なくしてわかるありがたさ、親と健康とセロテープ」と大書されていました。健康は誰にとっても大切なものであり、そこに関わる仕事をさせていただいている保健師としての責任と幸せを改めて感じました。実は、間違えて「こだま」に乗車したのですが、これを見るためだったのだと思うことにしました。

今後、保健師として、行政職員として、人としての視野を広く持ち、住民のための健康なまちづくりを皆で一歩ずつ行えればと思います。会員皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

前回のミニつうしん（8月15日）以降の事業等は、次のとおりです。

◆全国保健師長会北関東・甲信越ブロック研修会

平成30年9月29日（土）新潟県新潟市 新潟市保健所

出席者：会員5名（前橋市2名、渋川市1名、伊勢崎市1名、大泉町1名）

事例発表：前橋市長寿包括ケア課地域支援係長 中島敦子氏

「前橋市認知症初期集中支援事業について～前橋市における認知症施策の取り組み～」

◆全国保健師長会代議員総会

平成30年11月10日（土）愛知県名古屋市 アイリス愛知

出席者：1名（神山支部長）

総会：事業報告、役員改選

40周年記念事業：「歴代会長によるリレートーク」

◆研修事業

平成31年12月1日（土）10:00～11:30、ぐんま男女共同参画センター大研修室

テーマ：対人援助職のアンガーマネジメント

講師：ぐんま学園 園長 稲岡隆之氏

出席人数：60人（会員45人、非会員15人）群馬県庁保健師会と共催で実施

◆その他：平成30年11月、ぐんま男女共同参画センターの登録団体になりました。

北関東・甲信越ブロック研修会



参加報告

日時：平成30年9月29日（土）

場所：新潟市保健所

平成30年度全国保健師長会北関東甲信越ブロック研修会に参加して

市町村保健師

9月29日（土）に新潟市保健所で開催された全国保健師長会北関東甲信越ブロック研修会に参加しましたのでご報告いたします。

（1）全国保健師長会の谷戸典子副会長より平成30年度活動方針について本部報告

『未来を創造する公衆衛生活看護活動の展開—みる・つなぐ・動かす～保健師の原点から住民とともに創る未来—』をスローガンに活動するとともに、最重点活動目標としては、保健師活動の可視化と質の向上、情報発信の強化、災害保健活動の推進、市町村の会員拡大等の本部報告がありました。

平成30年度は全国保健師長会が発足して40周年の節目を迎えることから次世代を担う保健師が効果的かつ質の高い活力ある保健師活動を展開できるよう活動の足跡をまとめた40周年記念誌を発行し、記念事業として講演会と交流会等を実施予定とのことでした。

（2）茨城県下妻市保健センター森陽子所長より平成29年度地域保健総合推進事業報告

近年の大規模災害時における被災市町村保健師の役割、保健所との関係性を明らかにし、平常時の準備を検討することを目的に災害時の保健活動の活動推進に関する研究についての報告がありました。その結果、市町村では都道府県に比べ平時からの準備が遅れていることが明らかになったことから、保健師長会では、大規模災害時マニュアルを改正し、被災自治体や中規模災害対応に拡大し、市町村役割重視した保健に携わる人のマニュアルとしての今後のマニュアル改正実施について報告がありました。

（3）保健師活動実践報告

『未来を創造する公衆衛生活看護活動の展開—みる・つなぐ・動かす～保健師の原点から住民とともに創る未来—』のスローガンに基づく4例の活動報告がありました。

当支部からは前橋市長寿包括ケア課の中島敦子さんから前橋市認知症初期集中支援事業について報告がありました。平成25年度よりモデル事業として開始し、かかりつけ医や地域包括支援センターと連携し、早期にチームで専門的な支援を行うことにより、本人や家族の困りごとの解決につながることを実感し、家族介護の負担が軽減されることで結果的に在宅生活の継続につながると考えているとのことでした。さらに行政保健師として様々な認知症施策や社会資源をコーディネートし、地域包括ケアシステム全体を見据えて、事業の位置づけ・連携体制を図り、認知症となっても住み慣れた地域で暮らし続けられるように取り組んでいきたいとのことでした。

保健師を取り巻く社会環境は、疾病構造の変化や少子超高齢化社会、コミュニティの希薄化、健康格差の拡大等複雑多様化しています。今回の研修会で様々な職場で活躍する保健師の活動報告を聞き、また、情報交換することで刺激を受けるとともに、明日への活力を得られ、大きな意義があったと感じました。



＜平成 30 年度全国保健師長会北関東甲信越ブロック研修会にて
前橋市長寿包括ケア課の中島敦子さんの発表＞

全国保健師長研修会



日時：平成 30 年 11 月 8 日、9 日

場所：愛知県ホテルルブラ王山

群馬県保健師

今年度の全国保健師長研修会は、平成 30 年 11 月 8 日（木）・9 日（金）の 2 日間、愛知県ホテルルブラ王山において、テーマ「効果的な保健活動の展開に向け、リーダーに求められること」で開催されました。全国から約 350 名の参加があり、群馬県からは前橋市の保健師と私の 2 名が参加しました。

研修 1 日目は、千葉大学大学院看護学研究科・宮崎美砂子教授から、「災害時における統括保健師のコンピテンシー」に関する講演と、国立保健医療科学院・曾根智史次長から「効果的な保健活動の展開に向けて」の講演があり、続いてシンポジウムで 2 例（静岡県袋井市・横浜市）の実践報告とグループワークがありました。

研修 2 日目は、厚生労働省健康局健康課保健指導室・加藤典子室長から「地域保健をめぐる国の動向」、あいち健康の森健康科学総合センター・津下一代センター長から「今、改めて考える健康なまちづくりにおける保健師の役割」の講演と、2 例（静岡県・愛知県蒲郡市）の実践報告があり、最後に全国保健師長会・青柳玲子会長から「これからの保健師活動に求められること」の講演がありました。

私が印象に残った内容は、災害時の統括保健師の役割としてはマネジメントとリーダーシップの両方が必要であり、その実践能力は平時からの実践能力や調整能力として育成されるということでした。今回、実践報告をされた市の保健活動では、保健師だけでなく関係部門・関係機関と連携をし、PDCAサイクルをうまく回し効果的に事業を展開していました。また、事例報告をした県・市の保健師は皆、リーダーとして生き活きと活動をしていて、まさにマネジメント力とリーダーシップ力を発揮していました。多くの関係者と共通の目標を持ち協働し事業を展開していくためには、とても大切なことであり、良い刺激を得ることができました。

慌ただしい時期にもかかわらず、快く県外研修に送り出していただいた職場と関係者に感謝し、今後の活動に活かしていきたいと思えます。

第40回全国保健師長会代議員総会

日時：平成30年11月10日

場所：アイリス愛知

支部長 神山智子

代議員総会のご報告です。

今年是全国保健師長会が発足40年を迎えたことから、総会に続いて記念事業が行われました。来賓の厚生労働省健康局宇都宮局長は、これまでの保健師との深い関わり、期待とエールを語られました。

平成元年に出向した岩手県久慈保健所では、保健師が6市町村の地域住民と密に関わっていたこと。30歳位で総入れ歯の母親がいたことからむし歯について考えさせられたこと。平成14～15年に岡山県保健福祉部長だった際は、児童虐待の対応に、福祉系の職員だけでは困難と感じ、保健師のネットワークで対応を試み、4割が訪問困難であったものを、訪問できない事例は1年目で0件となったこと。「保健婦の島」に近寄ると指導を受けたこと。当時の職位は婦長止まり、現在の名簿の課長、部長を見ると隔世の感がある。47都道府県で統括保健師も置かれた。職位が変わっても保健師は、基本に「命を守る」という発想で力を発揮しているのではないか。保健師の可能性は無限に広がる。40年は1ステップ、活躍を期待する。とのことでした。

また、来年度代議員総会を行う岡山の代表からは、次のような話がありました。

7月の豪雨での被災初動時、混乱があり、他職種や住民からお叱りを受けた。その際、矢面に立ったのは県外の保健師だった。そして、後でお礼を述べた岡山の保健師に対し「大丈夫ですよ。私達が引き受けることで被災地の保健師が叱られなくて良かった。」と言ってくれた。保健師というそれだけで、同じ地域を担当したそれだけで、活動の目標を共有できる。地域に責任を持つという保健師のマインドが共通して働く力になる。専門性の継承のためにも、次回の総会では、一緒に考え言語化できるようにしたい。とのことでした。

また、40周年記念事業特別委員の群馬県吉野さんは、未来へのメッセージコーナーを担当されており、高崎市前田さんは、全国保健師長会活動スライドショーの上映を担当し、さらに、次期広報委員長【常任理事】に選出されました。

総会、歴代会長によるリレートークの内容は以下のとおりです。

他の部分の詳細につきましては、皆様に送付いたしました資料集をご覧ください。

<代議員総会>

- ・会員数5,511人 代議員数277人（群馬県代議員5人（出席1人、委任状4人））
総会は、当日出席者148人、委任状を加えて代議員の1/2を超え成立した。
- ・議題については、第10号議案（退職後も全国保健師長会の会員になれるよう、規約を改定するもの）が、詳細部分の質問に対し今後検討する旨の回答が多く、出席者の2/3の賛同が得られず否決。その他の議案は、可決された。
- ・全国保健師長会の2019年度活動テーマは、引き続き“未来を創造する公衆衛生看護活動の展開”－みる・つなぐ・動かす～保健師の原点から住民とともに創る未来～が採択された。
- ・次回、第41回代議員総会は、岡山県で行われる。

<歴代会長によるリレートーク>

未来を創造する保健師活動について～後輩保健師たちに伝えたいこと～

①第10代：大場エミ氏

66歳、横浜市在住。

S49年に就職。老人保健法施行前であり、自身が寝たきり老人宅に移動入浴を行っていた。その後の訪問看護開始、地域保健法施行、地区担当制廃止？保健師活動は大丈夫か？地域包括支援センターができたからと、高齢者の関わりがお任せになっていないか？と問いかけがあった。国から言われるままの事業をしているところと自ら考えるとことの差が出ている。10年先のビジョンを見据え、自らの力で自分達の活動を考える必要がある。

現在、横浜、横須賀の保健師OB3人が発起人となり神奈川虐待予防研究会を立ち上げ、12月8日に設立総会を開催する。100名を超える方が賛同し、会員になっている。

②第11代：加藤静子氏

平成24年・25年の会長として、保健師活動指針の見直し、公衆衛生看護学会の立ち上げ、東日本大震災の被災地支援に携わった。県の保健師としても、埼玉県保健師活動指針を策定、県内保健所の保健師業務の標準化に取り組んだ。

平成25年の大雪時に転倒し、大腿骨骨折を経験し、退職後の人生設計を考えた。

退職後には後期高齢者医療広域連合に籍を置き、県別の一人当たりの医療費の差等、改めて高齢社会の現実を感じた。保健師の仕事未来につなぐため、①住民に頼りにされる保健師であるために他部門からの意見に耳を傾ける必要がある②本当に住民のために役立つ仕事か考えてほしい③会員の拡大、法人格についても考えてほしい。

③第12代：鎌田久美子氏

福岡県行政保健師の管理職として勤務しながら全国保健師長会の会長を務めた。

保健師は専門職として、健康課題を分析・評価し、地域の特性を踏まえた施策化や、地域包括ケア体制の構築・推進を図る。子供や高齢者を含め誰もが、健康で活躍できる地域づくり、地域包括ケアの推進が重要であり、その実現には重症化予防、介護予防、健康管理等の包括的な取組が不可欠である。多職種連携の要としての役割も期待される。

健康課題は多様化・深刻化しており、母子保健や生活習慣病対策に留まらず、精神保健福祉分野、生活困窮者への支援の拡充など、保健師を必要とする領域、部署が拡大している。



<青柳会長挨拶>



<歴代会長3人のリレートーク>



<40周年記念事業特別委員の
群馬県吉野さん(右)と>



<高崎市前田さん(中央)は、31年度
広報委員長【常任理事】に選出されました>

全国保健師長会群馬県支部研修会

日時：平成30年12月1日(土)10時～11時30分
場所：ぐんま男女共同参画センター大会議室

群馬県保健師

平成30年12月1日(土)に、全国保健市長会群馬県支部と県庁保健師会の合同研修会がぐんま共同参画センターにて開催され、群馬学園の稲岡隆之園長による「対人援助職のアンガーマネジメント」をテーマに講演がありました。保健師長会と県庁保健師会の会員や会員以外の保健師およそ60名の参加がありました。演習では自分自身の振り返りを行い、終始にぎやかに時間を過ごすことができ、日頃の怒りについて話すことによって、多少すっきりすることができたかなと思います。研修会の概要について簡単にお伝えしたいと思います。

対人援助職のストレスは、肉体労働、頭脳労働、感情労働があり、特に現代社会はあらゆる職種で感情労働が強いられているということです。特に保健師は精神保健、児童福祉など、相手の心を受け止めることが必須となっている職種とのことです。中でも外傷体験を負った人の話に耳を傾ける場面では被害者と同様の外傷性ストレス反応(二次的トラウマティック・ストレス(STS))を生じることがあるということです。また、児童福祉分野における二次的トラウマティック・ストレス(STS)を例に、その予防のためにはどうしていくべきか、基本的な考え方として、私たちの気持ちや行動

は、認知（その時に頭に浮かんだ考えやイメージ）＝自動思考に影響されるということでした。自動思考とは自分の考え方の癖であり、自動思考にとらわれないためにどうしていくかを今回の演習で行いました。

まず、『怒り』についてです。『怒り』とは何か、人間の感情のひとつで身を守るための感情であり、なくすことはできないものであり、人を巻き込むものではないこと、自分のことであるということです。その『怒り』と上手につきあうためのトレーニングがアンガーマネジメントということでした。

『怒り』の性質とは、①高い所から低い所へ②身近な相手ほど強くなる③伝染しやすい④エネルギーになる⑤頂点は6秒であるとのことです。『怒り』の衝動は6秒が頂点で、収める方法として、①数を数える、計算する②呼吸法③別のことを考える④タイムアウト⑤魔法の言葉などがある。これらをふまえて実際に『怒り』のコントロールを演習において、自動思考記録表（7つのコラム）を用いて行いました。内なる自分の状態を振り返り、客観的に物事をとらえてプラスに考えていく…。「何でこんなことで」と思えるまでには至りませんが、日常生活の中で、自分の気持ちの管理を自分で対応できると思えることが大切と感じた演習でした。

相談対応での現場や職場での人間関係、家庭関係など『何でこうなるの』と思う出来事は多々あります。そんなときは6秒待って呼吸を整え、怒りの感情が別のプラスの感情へ変わるよう心がけたいと思います。何事もできるかどうかは自分次第と思う研修でした。ありがとうございました。

〈平成31年度の研修会について〉

次回の研修会は、平成31年6月1日(土)午後、群馬県支部総会後に開催します。講師は、元全国保健師長会会長の鎌田久美子氏です。現在は日本看護協会保健師職能委員長です。皆さまの力になるお話しをいただけるものと思います。皆さまの参加をお待ちしています。



編集後記



年々月日が過ぎるのを早く感じます。寒さもまだまだ続きます。今年もインフルエンザが猛威を振るい、お休みしている方もいるようです。日々の健康管理と手洗い励行等、お互いに充分気を付けながら仕事に励みましょう。